

鳳凰三山縦走

2年前に甲斐駒・仙丈を登った時に、野呂川を挟んで連なる鳳凰三山に登れば南アルプス北部の名山が全て展望できる、と思った。20代の頃に山仲間と2回、夜叉神峠から地蔵岳まで縦走した経験があり、残雪の白峰三山が雄大だったことを記憶している。それから30年以上経ったので、今年の5月は久しぶりにこの山域に登ることにした。

5月3日早朝、東京行き第1便に乗り込んで羽田へ、新宿からあずさ号で甲府へ入る。連休で賑わう駅周辺で昼食と買い物を済ませ、芦安行きのバスに乗る。終点の芦安でタクシーを呼び夜叉神峠登山口へと頼むと、昨日の大雨で途中の「山の神」で通行止め、とのこと。とにかく行ける所まで行ってもらふことにする。

「山の神」の車止めのゲートで降り、タクシー運転手のアドバイスに従って沢沿いの夜叉神峠登山道を進む。スーパー林道がなかったころの古い登山道で、所々に“夜叉神峠⇄芦安”の古い標識があった。徒渉が3か所あり、昨日の大雨で増水した沢に緊張した。車道を4回横切り、1時間半かけてやっと本来の登山口へ着くと時刻は既に17時40分。これから峠までは1時間、途中で暗くなってしまう。小屋に電話をして遅くなることを伝え、峠道を登りだす。途中でヘッドランプとなったが明瞭な道で迷うことはない。小屋の主人は心配して遠くから声をかけ、小屋の外で待っていてくれた。通行止めの影響か、この日の小屋は貸し切り状態で広々と使わせてもらった。

5月4日朝、白峰三山は雲に隠れていたがだんだん晴れて姿を現してきた。森の木々はまだ葉が出たばかりで緑がみずみずしい。ウグイス、ミソサザイ、ヒガラ、ホシガラス、アオゲラなどの鳥が次々と美しくさえずり別天地だ。高度を上げてシラビソの森に入ると日陰に残雪が現れる。雪原の眩しい南御室小屋で休憩していると、逆方向の何組かのパーティに出会う。次の薬師岳小屋から森林限界となり、左手に残雪の美しい白峰三山が見えてくる。薬師岳から観音岳の間は遮るものがなく稜線万歩だ。左手に白峰三山、右手には八ヶ岳がすそ野を広げて雄大だ。

観音岳に登り切ると一気に展望が広がり、北は地蔵岳のオベリスクの奥に甲斐駒ヶ岳、そして白い仙丈岳が聳えて見える。西に北岳から遠く荒川岳まで南アルプスの大展望を味わうことができた。ここから一気に地蔵岳のコルへ下り、通りかかった関西弁の青年と話して近道を鳳凰小屋へと下ることにする。ガスに覆われ始めた地蔵岳は、明日の朝アタックだ。鳳凰小屋への近道は急で、ピッケルを滑落停止に身構えて緊張するところがあった。登りには使えるが、下りには安全とは言えずあまり使わない方が良かった。鳳凰小屋到着は16時、本日は行動時間10時間でいささか疲れた。

5月5日は最終日、地蔵岳に向かって5時過ぎにアイゼンとピッケルで出発する。空には雲ひとつなく快晴だ。雪が締まり、“ザックザック”とアイゼンの音が小気味良い。小屋に荷物を置いて空身なので足取りも軽い。出発して1時間、長い雪渓に登り切ると山頂に到着する。ここから見る甲斐駒・仙丈は近くて大きい。観音岳の左には富士山が浮かぶ。さらに縦走路を10分程登るとアカヌケ沢の頭で、白峰三山が真正面に聳える。地蔵岳オベリスクのアングルも素晴らしく、今回の最大の撮影ポイントだ。見える全ての100名山の写真を、いろいろな角度から撮りまくる。

鳳凰小屋からの下りは御座石鉱泉のルートを取った。小屋の管理人によると、青木鉱泉にも下れるがドンドコ沢のコースは雪が深いとのことであった。御座石

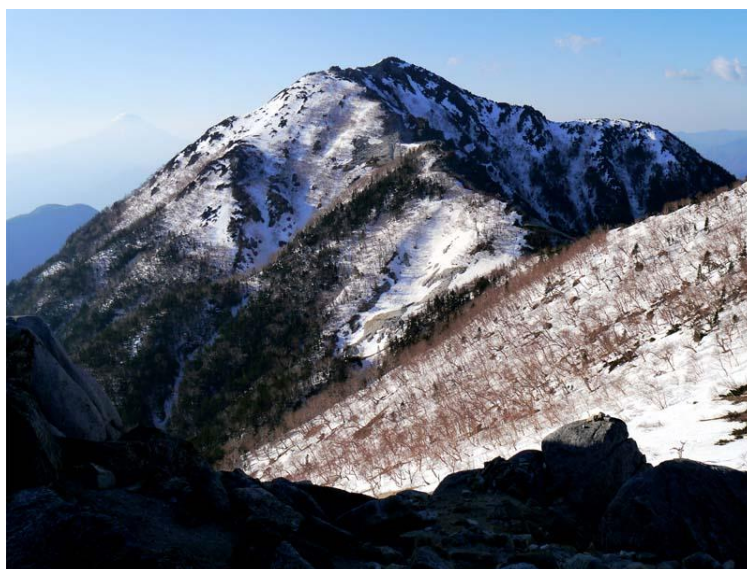
鉦泉ルートは尾根沿いの道で、所々から甲斐駒、鳳凰三山と八ヶ岳を眺めることができる。燕頭山でやっと半分、長い下りで最後は本当に疲れた。13時過ぎに到着し、バスが来るまで温泉に入り休憩をする。バスは小型で約20名の登山者で一杯だった。舗装のない道を揺られて平地に出ると、南に雄大な富士山が聳え間もなく韮崎へ到着し今回の山行を無事に終えた。

雑感

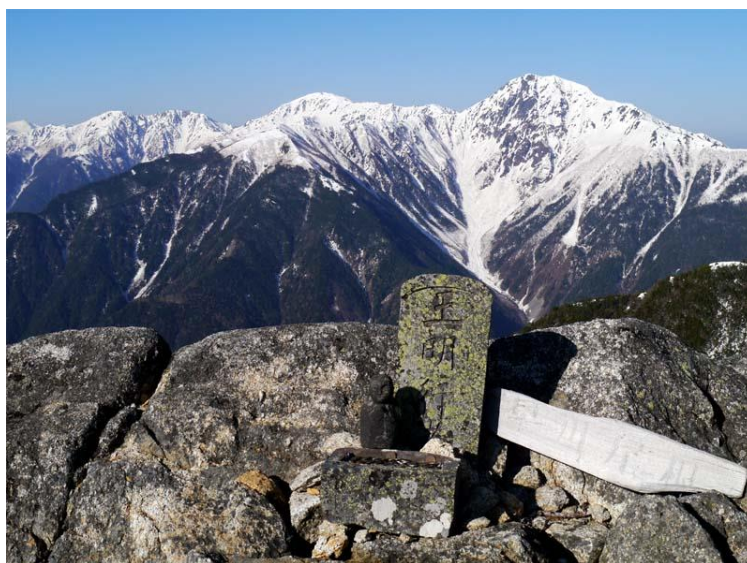
- (1) 下山後のニュースで、北アルプスにおいていくつもの遭難事故があり多くの死者が出たことを知った。特に白馬岳での凍死事故は痛ましいものであった。幸い南アルプスは好天に恵まれ、予定通り行動できたことは幸運と考えねばならない。この日の夜に、今回の北アルプス事故について田部井淳子さんのインタビューがニュースで流れた。この中で田部井さんの「自分のような中高年は、標準の2~3割少ない余裕をもった行動計画にする必要がある」という言葉が心に残った。私も中高年登山者の一人であり、肝に銘じて今後の計画を立てて行きたい。
- (2) 宿泊者は60人くらいだったが、30代以下の若い人が半分を占めそのほとんどが首都圏から来ていた。地蔵岳で10数名の登山者・山ガールに出会ったが、ほとんど20代で若さに溢れていた。首都圏では若い人の登山ブームは本物のようである。若い人達を見て、日本の登山界の将来は明るいと思った。
- (3) 鳳凰三山の縦走路には所々に「この地点で docomo 通信可」「ここは au 繋がります」と言った看板が出ている。杖立峠あたり、苺平付近、鳳凰小屋玄関先など。これを知っておくと事故の時の緊急連絡に使えると思った。昔は山での遭難対策のツールはトランシーバで、パーティの代表が持参し連絡を取っていた。私も幾度となく持たされた。しかし今はトランシーバでなく、ほとんどの登山者が携帯電話を持つ時代である。これを活用できれば命が助かるケースが多くなってきた。しかし深い山中では繋がる保証はなく、また通信会社によっても状態が異なる。複数人で登山するのであれば、異なる通信会社の端末を持ち合うことで繋がる（助かる）確率は上がると考えられる。
- (4) 出雲空港の検査でザックのガスボンベが引っかかり没収された。無いと山へ行けないため、新宿のデパートを探し回り電車の出発時間ぎりぎりで購入した。そのボンベが帰りの羽田空港でまた引っかかり没収された。飛行機利用の場合はガスボンベは持参できないので、現地で購入する方法などを事前に考えておく必要がある。
- (5) 今回は東京経由だったため、久しぶりに成長した孫に会うことが出来た。また、六本木の国立新美術館（セザンヌ展）とお台場のダイバーシティで遊ぶことが出来た。渋谷にも寄ったが、残念ながら話題のヒカリエで遊ぶ時間はなかった。東京スカイツリーは残念ながらオープン前。東京は遊ぶ所がたくさんあって楽しい。東京経由の登山計画では、遊ぶ時間をなるべく取られることをお勧めしたい。



薬師岳への稜線、奥に観音岳



観音岳と左奥に富士山（地藏岳より）



5月の白峰三山（アカヌケ沢の頭より）